

# 西来寺報

二〇一七年 春  
第二十五号

## 花まつりのこと

まだ、いささか寒いのですが、確実に春が訪れてきているようです。

さて、四月八日はお釈迦様がお生まれになった日で、日本では花まつりといわれています。また灌仏会(かみづぶえ)ともいいお釈迦様の誕生を祝うことになっていて、生まれた時の誕生仏をお飾りします。お釈迦様は釈迦族の王子としてルンビニー園(現在はネパールの地)で母を摩耶夫人、父を浄飯王の子供として、お生まれになりました。一般にお釈迦様といいますが、本名はゴータマ・シッダールタといい、釈迦族の聖者という意味で釈迦牟尼世尊略して釈尊とも言います。

誕生仏の姿は両手で天と地を指している姿ですが、伝えによると、母の右脇より生まれ出て七歩あるいて(六道輪廻を一步超えたときれる)天上天下唯我独尊と語りました。「私

たち一人ひとりはかけがえのない存在でありのまま一人にして尊い」ということです。その時天の龍王は祝福して甘露の法雨を降らせたと

言います。甘茶を注ぐのはこのことからきているようです。なお、仏教徒として覚えていたい日は十二月八日成道会(お悟りを開いた日)、二月二十五日涅槃会(お亡くなりになった日)と花まつりの四月八日です。



三浦にいかなくても河津桜が見られます  
2月14日撮影 西来寺墓地にある河津桜

### 第3回寺子屋のご案内

第3回の寺子屋が来福寺で開催されます。

4月19日、午後1時30分から。参加希望者は、お早めに西来寺までお電話ください。

## 平成29年(2017年)年回表

百 回忌	七十 回忌	五十 回忌	三十七 回忌	三十三 回忌	二十七 回忌	二十五 回忌	二十三 回忌	十七 回忌	十三 回忌	七 回忌	三 回忌	一 周忌
大正七年没	昭和二十三年没	昭和四十三年没	昭和五十六年没	昭和六十年没	平成三年没	平成五年没	平成七年没	平成十三年没	平成十七年没	平成二十三年没	平成二十七年没	平成二十八年没
(一九一八)	(一九四八)	(一九六八)	(一九八一)	(一九八五)	(一九九二)	(一九九三)	(一九九五)	(二〇〇一)	(二〇〇五)	(二〇一二)	(二〇一五)	(二〇一六)

### 門徒さんの銭湯に行こう

昭和60年頃、浴衣姿のお相撲さんが列をなして銭湯に行く風景。覚えていらっしゃるでしょうか？不入斗橋にある銭湯「あたり湯」の奥様、京子さんにお話をうかがいました。

横須賀場所の日は、とても大変でした。横綱と大関は男湯に、他の力士たちは女湯を使います。もちろんその時間は貸切。いつもは凛々しい力士も、銭湯ではわきあいあいと話して、親方に「違う部屋同士が仲良くなりすぎちゃいかん！」とよく叱られていましたね。



使い続けて86年目！脱衣籠と長椅子

小錦さんが湯船に入ったら勢いよく湯が溢れだして、ドバーっと脱衣所のところまで桶もなにもかも流れしてきたのにはびっくりしました。大乃国さんはゆっくり入ってくれたんですが、（笑）場所が終わっても髪付け油の香りは一ヶ月くらい続きます。縁起がいいとお客さんも喜んでくれていたものです。

あたり湯が今の建物になったのは昭和6年。江戸時代からこの場所は湯屋で、みんなが語らう公衆の場だったようです。今でもみなさんお風呂からあがってホカホカになった身体を乾かしながら脱衣場でお話していきます。喧嘩をし始めるお客さんもいたり、湯が熱いと文句を言うお客さんがいたりしますが、「一回二回来ただけでなにを言ってるんだ！」と助けてくれるお客さんもいて、だいたいのお客さん同士で解決してくれるんですよ。

震災をきっかけに銭湯が見直されています。そうはいっても今の時代に銭湯を営業し続けていくのは簡単なことではありません。近隣の銭湯が廃業する中、あたり湯でも閉める

ことを考えたこともありました。「昔オヤジさんに怒られたもんだよ」と、お孫さんを連れて来てくれるお客さん。「旅行は無理だけどせめてなにかしてあげたい」と、老人ホームにいるお母さんといっしょに来てくれた娘さん。あたり湯があることで喜んでもらえる、やっぱり嬉しくても多いんです。

西来寺の山門の脇に石碑が建っています。「四十八願道」寄進者に「建金太郎」とあります。あたり湯の先代のお名前です。

※載せきれなかったお話しと写真は西来寺ホームページでご覧になれます！



開放感のある洗い場 あたり湯ご主人と住職

### 春のお彼岸

3月17日（金）～23日（木）

本堂受付は20日（お中日）まで

今年も春のお彼岸の季節となりました。昨年、春のお彼岸の時に、先代住職がしきりにご門徒の方々への彼岸参りを気にかけていたことを思い出します。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、先代住職の後を受け継ぎ私（坊守）は昨夏からお彼岸参りをさせていただいております。実は私、約20年前に得度し、僧籍を持つている僧侶です。法名は積尼慧香です。私が法衣を着てお宅に何うと大抵の方が驚かれますが、そのような訳で回らせていただいている次第です。

また、先代の住職は大変な読書家で最晩年まで赤ペン片手に本を読んでいた。このお彼岸にその一部を本堂に並べて置いておきますので、ご希望の方はどうぞお持ちください。赤線を引いているものもありますが、読みながら父をしのんでいただければと思います。 坊守

